

たまねぎ（4月～6月）の需給見通し

1 生産出荷状況

(1) 供給計画

平成21年のたまねぎの供給計画によると、全農が9月に策定した当初計画(4月～10月)では、作付面積は対前年101%（系統共販分）であるが、10アール当たりの収量は前年並みを見込み、収穫量100%、出荷量を102%としたところである。確定計画は3月末策定により現在未発表。

作付面積 (ha)			10a 当たり収量 (kg)			収穫量 (t)			出荷量 (t)		
21年	20年	前年比	21年	20年	前年比	21年	20年	前年比	21年	20年	前年比
10,757	10,692	101	5,284	5,293	100	568,409	565,920	100	518,386	509,732	102

○当初計画

(2) 天候

主産地の佐賀県の本年の天候は、12月半ばまではほぼ前年並みで推移し、その後は前年を大きく下回る推移となったが、1月末からは、前年を大きく上回る推移となっている。日照時間については、12月は前年を上回って推移し、1月は前年を下回って推移したが、その後は前年をやや上回って推移している。降水量は、12月上旬は前年を上回って推移したが、下旬の一時期に前年並みの降水があったが1月半ばまではほとんどゼロに無かった。1月下旬以降は前年を上回る推移となっている。

(3) 生育・出荷状況及び今後の見通し

- ① 昨年の価格は平年をやや下回り、作付け意欲に対してはマイナスに働くと考えられる。
- ② 供給計画の当初計画では収穫量は対前年比 100%であり、出荷量は対前年比 102%である。
- ③ これまでのところ主産地では天候は良好であり生育は順調である。
- ④ 3 か月予報では主産地がある九州地方の 3~5 月期の平均気温が高い確率は 50%であり、前年並みの出荷が予想される。

資料：農林水産省統計情報部「青果物日別取扱高統計結果」

2 需要動向

(1) 家計消費

家計調査によるたまねぎの一人当たり購入数量をみると、4月から5月にかけては年間でも最も購入量が多い時期となっている。

(2) 加工・業務用需要

たまねぎの加工・業務用需要は、全体需要の59%と推定されている。

たまねぎの加工・業務用需要の動向

平成2年	平成12年	平成17年
54%	58%	59%

資料：農林水産政策研究所調べ

3 参考

たまねぎ(4月～6月)の過去における市場隔離等の実施状況

年度	実施時期	実施数量(t)
S55		
56		
57		
58	4月中旬～4月下旬	833
59	4月中旬	2,721
60	5月下旬～6月上旬	1,864
61		
62		
63		
H元		
2		
3	4月上旬～4月中旬	9,753
4	6月下旬	299
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14	4月上旬～6月下旬	10,634
15		
16		
17		
18		
19		